

第 1 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 郵便163-8019
住 所 東京都新宿区西新宿三丁目19番2号
氏 名 東日本電信電話株式会社
代表取締役社長 山村 雅之 印
(代理人) 取締役 神奈川事業部長 高橋 香苗
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 9 条第 1 項 (同条第 4 項において読み替えて準用する場合を含む。) の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東日本電信電話株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	*****		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	G	情報通信業
	中分類	37	通信業
主たる事業 の内容	東日本地域における地域電気通信業務及びこれに附帯する業務、目的達成業務、活用業務		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		10,445 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担 当 部 署 名	株式会社NTT東日本ー南関東 神奈川事業部 総務部 総務担当
		所 在 地	横浜市中区山下町198 NTT横浜ビル
	電話番号		045-211-6693
	FAX番号		045-222-7153
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	平成28年度 ～ 平成30年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組みについては、ホームページにて公表しています。 http://www.ntt-east.co.jp/ecology/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

1. 事業者全体の基本方針

NTT東日本では、「温暖化対策」「紙資源対策」「廃棄物対策」を地球環境に与える影響が特に大きい要素としてとらえ、中長期的視点から環境負荷の低減に努めています。2010年度には、2020年度に向けた新たなNTTグループ環境ビジョン「THE GREEN VISION 2020」を策定しました。特に、温暖化対策では、2020年度におけるCO2排出量を2008年度比で25%以上の削減を目標としています。

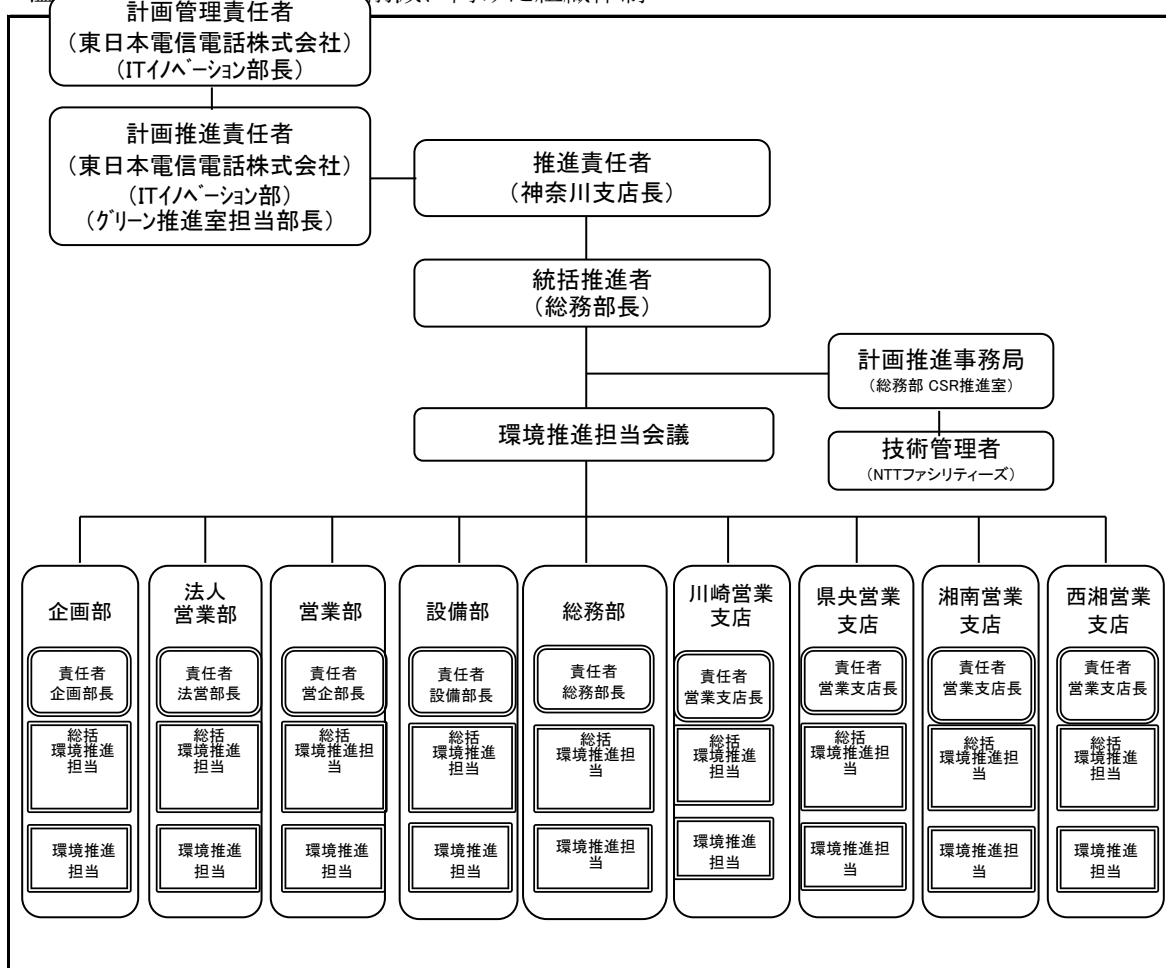
NTT東日本グループにおける温室効果ガス排出量は、通信設備で使用する電力によるものがその大部分を占めています。電力使用量削減のため、ネットワーク設備の更改・統合圧縮や、空調設備の更改等の施策に加えて、通信機械室内の運用改善についても順次展開しています。

また、NTT東日本では、光ブロードバンドサービス「フレッツ光」の普及拡大に積極的に取り組んでいます。「フレッツ光」により、便利で快適な通信環境が実現できるとともに、社会全体の二酸化炭素排出量の低減にも寄与することができます。

2. 市内事業所の基本方針

温室効果ガスの排出量の削減に向けては、これまで構築してきたISO14001における推進体制を活かし、取り組んでいきます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成27年度	目標年度	平成30年度
基準排出量	(実) 20,323 (調) 20,040 t-CO ₂	目標排出量	(実) 20,279 (調) 19,996 t-CO ₂
削減率	(実) 0.2 (調) 0.2 %	削減量	(実) 44 (調) 44 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量		単 位	
基準年度の値		目標年度の値	
削減率	%		
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

温室効果ガス排出量の大部分を占めるのは、電気通信設備で使用する電力に伴う排出です。電気通信は、重要な社会インフラであることに加え、次世代ネットワーク（NGN）サービスに伴う設備の導入が進んでいることから、当面エネルギー消費量の削減は容易なものではありません。そこで、NTT東日本では、これまで進めてきたネットワーク設備の更改・統合や、空調設備の更改、トータルパワー改革（TPR）運動等の施策に加えて、通信機械室内の運用改善についても推進していくことにより、温室効果ガス排出量の増加を抑え、削減に努めます。 温室効果ガス排出量の削減計画は、下記の通りです。 ・2016年：ネットワーク設備の更改・統合、空調設備の更改等 約 6 t-CO₂削減 ・2017年：ネットワーク設備の更改・統合、空調設備の更改等 約 18 t-CO₂削減 ・2018年：ネットワーク設備の更改・統合、空調設備の更改等 約 20 t-CO₂削減	
---	--

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

全社的には、電力・ガス・燃料に関する目標を2015年度における使用量実績以下に設定している。
--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)	○ISO14001を活用した推進体制の整備 2000年3月より取得しているISO14001の推進体制を活用し、温室効果ガスの排出量の削減に向けた取組みを推進して行きます。 ○電気通信設備に関する温暖化対策 通信設備で使用する電力量削減のため、以下の施策を引き続き実施していきます。 ・ネットワーク設備の更改・統合圧縮 ・高効率な空調設備への更改 ・通信機械室内の運用改善 ○事務所に係る温暖化対策 オフィスで使用する電力量削減のため、以下の施策を引き続き実施していきます。 ・昼休み時の消灯 ・クールビズ、ウォームビズの実施 ・OA機器の低消費電力設定 ・老朽照明の更改 ・LED照明の導入検討 ・屋上緑化
自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 3 号該当者等)	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

○ 設備等の効率化・省エネ化の取り組みに加え、自然エネルギーの活用も推進しています。一体の太陽エネルギー活用に向けた取り組み「グリーンNTT」へ積極的に参画し、創エネ活動として、2012年度までに総発電設備容量を5.1MW規模まで拡大し、自社投資とグリーンLLP(会社名)への出資を通じて、自社ビル・敷地内に太陽光発電設備を構築する計画です。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

省エネルギー設備の導入については、基準年度以前から積極的な取り組みを行っている。
 具体的には、これまで次のような取り組みを実施している。
 ○電気通信設備に関する温暖化対策として、ネットワーク設備の更改および統廃合の実施。
 (平成27年度)
 ○高効率空調機への更改。(平成27年度)

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

○ ブロードバンド機器の低消費電力化

お客さま宅に設置するホームゲートウェイについて、電力消費量を低減した新機種を開発し、2007年度末から導入しています。この装置は、お客さまのインターネット利用が少ない時間帯にLEDランプの消灯や処理速度を遅くする等、お客さまによる消費電力設定ができるもので、消費電力を最大10%低減しています。

○ フレッツ光の普及拡大

NTT東日本では、光ブロードバンドサービス「フレッツ光」の普及拡大に積極的に取り組んでいます。

「フレッツ光」を利用した場合と、郵便、新聞等による情報収集、店舗での物品の購入等、従来の手段を利用した場合のCO2排出量を比較すると、フレッツ光（戸建タイプ）を使用した場合、排出されるCO2は従来手段に比べて約46%、マンションタイプの場合は約39%削減されます。

○ テレビ会議の活用

ICT（情報通信技術）を活用してテレビ会議をすることで、出張経費の削減を図るとともに、環境負荷の低減にも努めています。人の移動に係るCO2排出量の削減、会議資料の電離化による紙資源の利用低減に大きく貢献しています。

東京-大阪間でテレビ会議を活用した場合、CO2排出量は年間約48%削減されます。（出張者2人、2時間の会議を月2回実施したケースにより比較）

○ 「PC省エネサポート」の普及によるエネルギー削減

2010年11月より、家庭やオフィスで使用される機器の中でも消費電力が高いPCを手軽に節電仕様にカスタマイズできるシステムを提供しています。また、東日本大震災に伴う節電意識の高まりから、2011年7月より「フレッツ光」をご利用のすべてのみなさまを対象に無料でご提供しています。

1日あたり平均約43Whの節電を実現することが可能。これはLED電球1個を約5時間点灯させる消費電力量に相当します。消費電力量等を毎日お知らせし、週や月ごとにグラフ化してチェックすることが可能です。

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

・グリーン調達の推進

「NTTグループ グリーン調達ガイドライン」に基づき、グリーン調達の推進を行っています。

・廃棄物の減量化・分別化の推進

通信設備撤去、土木工事に伴う廃棄物についてはゼロエミッション（再資源化率99%以上）を達成しており、それぞれ2005年度、2007年度より継続しています。建築工事廃棄物についても、ゼロエミッションを達成できるよう、リサイクル率向上に取り組んでいます。

オフィス内廃棄物については、分別の徹底や処理フローの見直しにより、リサイクル率の向上に努めています。

・社員に向けた環境教育の実施

環境問題に対して社員一人ひとりが自ら考え、行動することを目標に全社員を対象とした環境教育を実施しています。

・社員参加型環境活動の取組み

社員一人ひとりが日常の生活から生じる環境負荷の低減に努めるために、2009年6月より開始した社員参加型環境活動「NTT東日本グループアクトグリーン21」は順調に活動の場を広げています。「eco検定」は4000人規模の社員が合格し、環境デーや、環境月間などを通じた日本各地での清掃活動には述べ22000人以上が参加しました。

2014年8月より特定非営利法人（NPO）チームふくしまが東日本大震災復興支援活動として展開する「福島ひまわり里親プロジェクト」に試行的に参画（3拠点）し、採取した種を「福島ひまわり里親プロジェクト」へ寄贈しました。2015年度は神奈川事業部として本格的に展開を拡げて、県内の各拠点及び社員の自宅等で約4000本の栽培に取り組んでまいります。

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	20,323	t-CO ₂
(調)	20,040	

イ 第 3 号該当者等

(実)	t-CO ₂
(調)	

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
* * * * *	* * * * *	3711	地域電気通信業（有線放送電話業を除く）	4,809 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
別紙のとおり				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	4
300～400kl 未満	1
200～300kl 未満	4
100～200kl 未満	
100kl 未満	1

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--

年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事業の名称	温室効果ガスの排出の量
* * * * *	* * * * *	3711	地域電気通信業（有線放送電話業を除く）	2,329 t-CO ₂
* * * * *	* * * * *	3711	地域電気通信業（有線放送電話業を除く）	1,856 t-CO ₂
* * * * *	* * * * *	3711	地域電気通信業（有線放送電話業を除く）	1,502 t-CO ₂
* * * * *	* * * * *	3711	地域電気通信業（有線放送電話業を除く）	1,015 t-CO ₂
* * * * *	* * * * *	3711	地域電気通信業（有線放送電話業を除く）	1,284 t-CO ₂
* * * * *	* * * * *	3711	地域電気通信業（有線放送電話業を除く）	1,027 t-CO ₂